

2017年10月23日

## 第48回衆議院議員総選挙結果を受けてのJAM書記長談話

ものづくり産業労働組合

J A M

書記長 中井寛哉

10月22日に第48回衆議院議員総選挙が行われ、自公勢力が全議席の3分の2を上回る313議席を得て、安倍政権の継続を許す結果となった。この選挙を通じての政権交代・安倍一強政治の打破、自らの手による「働き方改革」の実現を期したわれわれにとって、大変残念な結果となった。

一方、われわれが従来から支援してきた勢力は、突然の解散となったことなどの影響を大きく受け、分断される形で選挙戦を戦うこととなった。その結果、立憲民主党が55議席と大きく躍進したものの、希望の党は50議席に留まり、JAMの推薦候補者の当選は、195人中95人の結果であった。

JAMは結成以来、政権交代による緊張感を持った政治体制を追い求めている。政治の世界はまさに「数が力」であり、力の分散は相手を利することにつながる。新たな政治勢力がどのような運営や国会対策を取っていくのか、慎重に見極める必要があるが、われわれは、働く者・生活者の視点に立った政治勢力の集結を望んでいる。

組合員の声の実現のため、わが国の労働組合は古くから政治にももの申し、関与する活動を続けてきた。われわれにとって厳しい結果となった今回の総選挙の結果に怯むことなく、諦めることなく、われわれは運動を前進させていく必要がある。

いま、われわれは、2019年夏の参議院選挙に向けて、『田中ひさや』を擁した取り組みを進めている。今後の政治動向の流れによっては難しい対応が必要となることも想定されるが、「JAMの国会議席」の奪還はそれらを乗り越えてでも実現しなければならない組織課題だ。JAMは、引き続き、全組織を挙げてすべての組合員の心をつかむ活動の展開をめざしていく。

以上